

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400021		
法人名	K&Kサポート株式会社		
事業所名	うさぎ亀山グループホーム		
所在地	三重県亀山市川合町字照田159		
自己評価作成日	平成21年10月3日	評価結果市町村提出日	平成21年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2490400021&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 21 年 11 月 9 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

二つの地区の境界に立っており、窓からは田園風景が見え、反対側からは住宅街が見える。季節によって稲の刈りや、施設内の畑での収穫を見て楽しめる一方、散歩で行ける範囲に大通りがあり、スーパーなど、気軽に買い物に出ることができる好条件に立地している。職員は開設当初から異動がなく、介護経験者が対応しているので、理念の把握もしっかりしており、質の良い介護が行なっている様子である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人権と尊厳を大切にした介護」を理念とし、外来者にも見える所に掲示し、実践に努めている。	基本理念として『人権と尊厳を大切に』『介護の質の向上』『地域の社会福祉に貢献』と大きく3つに分かれている。理念は職員に周知徹底されており、日常のミーティングなどでも常に話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買物時に近所の方と挨拶・会話をしたり、現在2ヶ所の自治会に加入し、地域の祭りや幼稚園の運動会に参加したりして交流を深めている。	地区の境界に立っているため、二つの地区の自治会に加入している。地域の介護の専門家として話をしたり、地域の行事への参加の声かけもあり、参加し交流している。散歩に行くと声かけや挨拶をし合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の集まりに参加し、事業所の説明や、相談を受け付けたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、市職員や他事業所の方にも参加して頂き、事業所の状況を報告したり、認知症への理解を深めて頂くよう話し合いを行ったりしている。	2ヶ月に一度行っており、日によって都合の悪い方は居るが、市職員・自治会・家族・他事業所など積極的に参加してもらっている。事業所のサポーターと言えるような方が見え、意見をもらった様々な情報を提供してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主として地域の社会福祉協議会や地域包括支援センター・広域連合との連携で情報の交換や指導を受けている。また、市からのボランティアや、学生の体験学習を受け入れている。	亀山市社会福祉協議会主催の、中学生の体験教室の受け入れを行なっている。車椅子レクダンス体験学習会を事業所内で行い、亀山市長他70名ほど参加してもらい大盛況だったことがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等を通して理解を深め、日常の業務・会話の中でも意識付けるようにしている。玄関も日中は開放しており、外出希望時も付き添い・見守りをするよう努めている。	研修などで話し合い、身体拘束を行わないように徹底している。身体拘束に当たると思われることがあれば、すぐに職員同士で確認し合っている。玄関の施錠は夜間のみで、日中は開けっ放しで自由に出入りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会があれば研修等に参加している。各自が意識を持ち、言葉掛け(語調等)にも気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる利用者がある場合は、施設長が中心となり、活用できるように支援している。各職員が学ぶ機会はあまり持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等は、説明を十分に行い、同意を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に積極的に話しかけ、意見・要望を引き出すよう努めている。月1回広域連合より介護相談員に来て頂き、利用者からの意見を聞く機会としている。意見箱を設置しているが、利用は少なく、気軽に活用して頂くよう働きかけも必要である。	利用者からは日常の生活で聞き取っており、家族からは面会時に状況報告し、要望がないか聞いている。また、月に一回、介護相談員に来てもらい、利用者からの意見を聞き出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回はミーティングを開き、広く意見を交換している。	普段から職員が自ら動き、試行錯誤しながら改善をしており、その状況をミーティングで話し合ったりしている。日常的に管理者に意見を提案しており、話しやすい雰囲気が持たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に職務を分担し、負担にならないようにするとともに使命感を持って業務に当たるようにしている。また、資格取得も前向きに支援している。しかし、昇給等が難しく、向上心を維持しづらい状況も存在する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験等、それぞれの能力に応じた研修に参加したり、他所で開催される研修の告知を行っている。また、スタッフの要望も踏まえ、月1回の勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修等に参加したり、運営推進会議に他事業所の職員に参加して頂いたりして交流の機会を持っている。また、他事業所に呼びかけて、車椅子レクダンスの講習会を開催した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、本人の話を直接伺って要望等を汲み取るとともに、職員と顔を合わせ、安心できる関係を築く機会としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談等で、困っている事・家族としての思いを聞き出すよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所だけで判断するのではなく、家族・担当ケアマネージャー・関係する医療機関と連絡を取り、サービスを進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に調理や掃除を一緒にしたり、分からないことがあれば助言を求めるなど、人生経験から教わることも多く、協力・支え合いの関係を築いている。会話においては一方的にならないよう傾聴を心がけ、家族のように接して頂ける関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族が上手く会話が出来ない時は間に入ったりして本人とのコミュニケーションを進めて頂き、本人の様子を伝えたり昔の様子を聞いたり情報交換を行い、共に支える意識を持って頂く。ただ、全体的に面会等が少なく、外泊等、物理的な支援は受けにくいのが現状である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・電話・手紙等を通して関係を保つよう支援している。馴染みの場所へ行ったり、昔を思い出していただけるような行事を企画している。	暑中見舞いの葉書を、利用者自らが手で書いて作り、キーパーソン以外の遠方に居る家族・親戚に送っている。併設のデイサービスの利用者に、地元の人がいると挨拶や話をし合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席を考慮したり、会話を取り持ったりと、利用者同士の関係や心情に配慮している。利用者同士で声を掛けてもらったり、共同作業の中で自然に係る場面も見られるが、意思表示の困難な方や、好みの違い等についてはもっと支援・配慮が必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の状況を、担当ケアマネジャーと情報交換をしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	したい事・したくない事等、希望に応じた対応をするため、意向を把握するよう努めている。	普段の生活の中から聞き出している。話の中で、本人の希望や昔の習慣が聞き取れると、職員同士で話し合い、情報の共有をしている。今後はセンター方式を使用していく予定である。	センター方式の利用で、利用者の情報を書面に残すことによって、職員同士の共有がしやすくなり、全職員が共通したより良い対応をしていくことが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や、家族との情報交換によって把握に努めている。センター方式を用い、家族の協力を得るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の言動・会話に目配りするよう心がけ、状態・日々の違いを日誌等に記録し、他職員とも意見交換して把握に努めている。ケア時は、最初から手を出さず、出来ないところをフォローするよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝の申し送り・月1回のミーティングにて全ての職員で意見を出し合い、介護計画を作成している。ただ、家族に意見を求めているが、具体的な要望は出にくく、職員の話合いによることが中心となりがちである。	本人・家族からの聞き取りをしており、主治医からも意見があれば聞いている。月一回のミーティング内で、介護計画についても話し合っており、職員全体で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さなことでも、日々の変化や会話の内容等も個別に記録している。毎朝申し送りをを行い、参加しなかった者も必ず記録・連絡ノートに目を通して情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院等にも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館や市施設の足湯を利用している。消防訓練時は、消防署・防災設備会社の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1度の往診と、緊急時は24時間対応してもらっている。入所前からのかかりつけ医を利用する場合は、主に家族にて受診していただいているが、毎回文書で近況報告を行い、指示を頂いている。	主治医が2週間に一度、往診に来ており、医療面での意見・指示を聞き取っている。24時間対応してもらっている。専門医(歯科・ヒフ科など)は、利用者それぞれの入居前からのかかりつけ医にかかっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	表情・体調等を観察し、細かい気付きも看護師に報告し、相談・対応・指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護職員を中心に、病院・家族と連絡を取り、情報提供・交換するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する方針を文書で提示・説明し、理解していただいている。また、本人・家族の気持ちを伺い、家族内でも話し合い等をして頂くよう勧めている。	「看取りの指針」を作成し、家族に説明、同意を得ている。施設内でできることと、できないことの区別をつけ、できることには積極的に取り組んでいる。今までに数人ターミナルを受け入れた事がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを設置している。訓練の定期的実施は出来ておらず、今後の勉強会等で強化していく予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会にて学習し、利用者も参加して避難訓練を実施している。地元自治会・消防団への協力も要請している。	年2回避難訓練を実施している。防災機器の点検も定期的に行っており、防災会社の職員が避難訓練に参加してくれている。地域の消防団などには依頼しているが、参加には至っていない。	地域の消防署から、消防団に話をしてもらったが、なかなか参加は難しい様子である。今後、運営推進委員会などで、意見を上げ、少しでも地元の方が参加できるように努力していくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格・心身状態を考慮し、言葉掛け・言葉遣いには気を配るよう努めているが、親しさを表し過ぎたり、対応に苦慮するような場面では不適切な対応になっていると気付くこともある。職員同士で意識を高めるよう努めている。	理念に「人権と尊厳」とあがっており、全職員が常に気をつけている。特に、利用者との距離が近くなりすぎて、言葉使いがぐだげすぎることが多いが、すぐに気づいて直せるよう職員同士で気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を理解するよう努め、決め付けの発言をしない・本人が答えやすい質問の仕方をする等工夫し、出来る限り希望がかなえられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	厳密な決まりは設けず、外に出たい人には付き添う等、本人の希望・体調に合わせて本人のペースで過ごして頂くよう支援している。ただ、本人の希望が表し難い場合は、職員主導に成りがちである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを把握し、着たい服があれば着て頂き、好みの髪型に整えたりする。希望に応じて、行きつけの美容院に行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片付けを一緒にして頂いたり、職員も同じテーブルを囲んで「おいしく出来た」とアピールするなど、食事の楽しみを共有している。	昼食は併設のデイサービスで作っているの、夕食や日曜日などに利用者と一緒に料理をしている。調理をするときは男性の利用者も積極的に参加できる楽しい雰囲気を作っている。毎食後、それぞれの利用者で下膳を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎食記録している。摂取状況に応じて量や形状を考慮したり、時間をおいて再度すすめる等、配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各自の居室にて口腔ケアを行っている。出来ることはして頂き、出来ないところをフォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間だけでも布パンツにしたり、ポータブルトイレと常設トイレを状況に応じて併用したり、適宜トイレ誘導をする等、自立に近づけるよう支援している。尿取りパットについても、サイズや種類を色々試している。	居室内にポータブルトイレを置いている利用者が数人いるが、日中は使うことなく、声かけて共同トイレへ誘導している。職員が排泄感覚を把握をする事によって、紙パンツから普通の下着になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し、水分摂取や散歩などの運動を促している。冷水や牛乳・ヨーグルトなどを取り入れたりしているが、まだまだ薬に頼っている面も多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日等は決めず、体調を考慮して、本人の同意を得て支援している。時間については、職員配置の面から、夜間に対応できない。	午後が入浴の時間になっており、順番は特に決めていないが、皆が2日に一回の割合で入っている。併設のデイサービスの利用がない時には、機械浴を利用させてもらったり、個人対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は安心を促す声掛けを心がけ、主に午後、休みたい方は休む時間を作り、室温等にも配慮しているが、昼夜逆転で不眠にならぬよう、起きている時は活動を促している。それでも不眠の時は、無理強いをせず見守り、安心できるような対応を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬説明書を薬と一緒に保管し、別に見やすいように掲示して目を通すようにしている。体調の変化があれば看護師や医師に相談し、薬局との連絡も密に取っている。勉強会も予定している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や好み・得意・不得意を把握し、料理・畑仕事・戸締り確認などをお願いし、役割を持つ張り合いを感じて頂いている。実行後は「ありがとう」と感謝を述べ、やりがいを感じて頂くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、買物や散歩に出掛けたり、地域のイベントに参加したりしている。行事として、年1回以上、日帰り旅行を行っている。本人の希望を出来るだけ家族に伝えているが、協力を得ることがなかなか出来ておらず、施設内での活動と成りがちである。	散歩や買い物は、特に予定を決めることなく、利用者の希望があれば随時行っている。家族と出かけられる方もいる。利用者の要望を聞き、日帰りで夕食や温泉、花火見学や観光など、こまめに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事等の外出時はお小遣いとして持って頂き、購入されることもあるが、普段は事務所で預かっており、職員が管理している状態である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物のお礼の電話や、暑中見舞いを実施している。希望があれば状況に応じて電話をしたりするが、良い関係を保つ為の電話・手紙の希望自体が少なく、もっと引き出す働きかけが必要と思われる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	TVの音量や外からの光等には配慮し、快適な空間となるよう心がけている。季節の飾り・作品を一緒に作って飾り、季節感を感じて頂くようにしている。	玄関入ってすぐにホールになっており、正面にも大きな窓があり、広く明るく感じる。窓からは色づいた柿の木が見え、日々の話題となっている。床は木目調の明るい色で居室内も同じ床材を使用し、壁には行事の写真がたくさん飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の広さに限りがあり、難しいが、自席とは別にソファやいすのスペースを作り、自由に使っている。一人で景色を眺めたり気の合う方とおしゃべりする等、好みの場所がそれぞれに出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	まだまだ少ない状態であるが、入居時等にお願いして、使い慣れた布団・TV、家族や昔の写真を持ってきて頂き、飾ったりしている。居室内も、整理整頓されていないように見えても本人にとっては居心地はよさそうであることもある。	家庭から、位牌やテレビなど見慣れた私物を持ち込んでいる利用者もいる。各居室には手作りの大きな見やすいカレンダーが飾ってあり、壁には行事や家族の写真が飾ってあり、個々の居室の違いが見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各室には表札を掛け、トイレや浴室の表示を分かりやすくしたり、2重の扉は1つは止めて1枚にしたりし、倉庫は入り口を狭めたり開かないようにして間違っって入らないようにしている。		